校報
香島
香島小学校
12月号 H28.12.1
発行者 NO.8
久保田 昌之

一年の締めくくりを

鮮やかに色づいていた校庭の銀杏や紅葉の葉も落ち始め、寒さも一段と厳しくなってきました。香島っ子は、寒さに負けずに外で元気に遊び、いつも校庭は子どもたちでいっぱいです。

さて、二学期の登校日もあと十五日となりました。まとめの十二月です。学校では、学習面、生活面を振り返り、新たな目標を持って新年を迎えられるよう指導していきます。

保護者や地域の皆様をはじめ、関係者皆様には、いろいろな面でご支援とご協力をいただきました。そのご厚情に感謝するとともに、皆様におかれましては、どうぞよいお年を迎えられますよう、祈念いたします。

たからもの

「子宝」という言葉の通り、子どもは、家族にとって宝物です。反対に、子どもたちにとっても家族は宝物です。周囲の人間に宝物として愛されれば、自分を好きになり、他人も好きになり、他人のために役に立ちたいと願うようになると言われています。子どもが、自分を好きになれるように手助けをするのが私たち大人の仕事です。

おかあさん

おかあさんは、よそのひとにあったらいつもぼくのことを「これ、うちのたからもの。」という。ぼくは、はずかしくなっちゃうよ。おかあさんは、ぼくがねるとき、いつも「こもりうた、うたってあげようか。」という。「まいにち、そうえんりょしないで。」といってもまあ、そうえんりょしないで。」とはのひに、かあねえしょんをあげて「ひゃくさい、いまでいきろよ。」とおかあさんは、ぼくの、たからものだ。

『おかあさんの詩1』大和書房より